

米国病院船マーシー東京寄港に係る企画検討会（第1回）

議事要旨

1 日時等

日時：平成29年12月6日（水）17:30～19:00

場所：中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室

2 出席者

跡見委員（座長）、小井土委員、砂田委員、山口委員、横田委員、吉井委員
行政委員（内閣官房（内政）三浦委員、内閣官房（事態対処・危機管理担当）岩下委員（代理 堺参事官補佐）、内閣府（防災）須藤委員、消防庁 野本委員（代理 森川救急専門官）、消防庁 本間委員（代理 明田課長補佐）、外務省 有吉委員（代理 馬場首席事務官）、厚生労働省 徳本委員、国土交通省 吉田委員、海上保安庁 金子委員、防衛省 矢田委員、防衛省 得津委員（代理 堀越係員）、防衛省 山口委員（代理 渡辺班長）、東京都 小澤委員（代理 金杉統括課長代理）、東京都 清武委員、東京消防庁 山本委員

3 議事要旨

- (1) 会議の冒頭、内閣府政策統括官（防災担当）付須藤参事官（災害緊急事態対処担当）から挨拶の後、事務局から本企画検討会の開催趣旨について説明を行い、委員の互選により、跡見委員が座長に選任された。
- (2) 企画検討会の会議・議事要旨・企画検討会の資料の公開に係る取扱いについて、以下のとおりとすることとされた。
 - 企画検討会の開催日時・議事については、マーシーの寄港日程公表までは非公表とする。
 - 企画検討会の会議は、米軍との調整内容や個人名も取り上げられることから、非公開とし、発言者を伏せた議事要旨のみを作成し、内閣府防災担当のホームページで公開する。
 - 企画検討会の資料については、米軍等調整に係る資料については非公開とし、その他の部分は、作成者の了解が得られれば内閣府防災担当のホームページで公開する。
- (3) 事務局から「マーシーの概要」、防衛省から「米国病院船「Mercy」を利用した Pacific Partnership（「PP」）と日本の貢献について」説明が行われた。

(4) 事務局から「米国病院船マーシー寄港に係るこれまでの経緯と現状」、「訓練・セミナー・シンポジウムの現在の企画案」及び「本日の論点」について説明を行い、委員間で議論を行った。議論の冒頭、山口委員から提出資料（「米国病院船 Mercy から学ぶ『災害医療人材育成セミナー（仮称）案』 ～コンセプト～学んでのち足らざるを知る～」）について説明が行われた。

委員からの主な意見は以下のとおり。

- 今回の訓練は、米国では災害時等にどのようなオペレーションの流れをしているのかを見せてもらうということに主眼をおきたい。
- 首都直下地震時には、外傷患者が多く発生することはもちろんであるが、既存の病院が壊れることが危惧される。具体的に言えば、病院で透析を受けている患者や人工呼吸器を使っている患者が、マーシーに収容できるか、あるいは、外傷患者だけではなく、ICUの入院患者がマーシーに収容できるかということを想定に加えることを考えてはどうか。
- 日米共同医療搬送訓練について、羽田空港を被災現場とみなして搬送する想定については、この想定でよい。
- 搬送対象は、外傷的な患者1名と病院移転的な症例を1名という考えにするのはどうか。
- クラッシュを含めた透析というものは、マーシーでは行っていない印象がある。マーシーの優れた点としては、輸血の能力がある。
- マーシーの医療を見て感心したことは、動線が機能的であること。マーシーの良さを実感していただくためには、大量出血の多発性外傷患者は是非いれていただきたい症例。
- マーシーの感染症に対するルールアウトについては非常に勉強になる。
- 小型作業艇を用いて搬送する軽症患者の症例は、米側の実運用上に合わせた形で調整してもらうこととしたい。
- 軽症患者は歩ける患者なのか。どうして歩ける64人の患者をマーシーに運ぶのかという必要性の理由を考えないといけない。
- 患者役を人形とするか人とするかについては、人形では、人形を運ぶ人も別途必要になってしまうので、患者役も含め人選に課題があるが、人で大きな問題はない。
- マーシーは、動線が非常に工夫され、またコンパクトであり、さまざまなことを見せてもらう価値があるというならば、ICU入室までを見学させてもらう形で良いのではないかと考える。
- 患者のIDのふり方を教えていただけたらと思う。
- IDという話があったが、インフォームドコンセントをどうするのかという部分も見

せてもらいたい。

- マーシーが特別に NBC に強い船ということではない、ただ除染のユニットを持っており、ビニールカーテンのような形でアイソレーションできる。
- NBC 患者の想定は米側の方にお任せするということとし、その過程をよく見せていただくということとしたい。
- 病院船が持つ能力がどこまであるか検討することと、平時利用でどのような運用方法が考えられるか、これは病院船の問題となっていることでもあるので、十分検討したいと思う。そしてもう一つは災害時にどれだけ司令塔としての役割を果たすことができるかということが示されている。どこまで病院船が、司令塔としての機能を発揮できるのかということだが、災害が起きたときに、病院船が中心となって非常事態宣言を発するようなことはできないので、あくまで現場において病院船ができる司令塔機能はどこまででどのようなものをマーシーがどのような系統で何をやっているかをしっかり把握して、それを日本で病院船がオペレートするときに、きちんとしたオペレート機能を発揮しようというような、3つの観点でどうか。
- 病院船というからには、きちんと医療を中心としたものをマーシーがやっているということもしっかり見て分析することとしたい。
- セミナーの順番は、能力やそういったものをしっかり把握する。次に災害時にこの病院船がどういう形で機能して動くのか、そして3番目が平時の利用法というような順序に変えていただいたらよいのではないか。
- シンポジウムの内容は、3つのチームの代表者が分析した結果を話し、それをマーシー側の方とディスカッションしていくことになると思う。これも米側に期待する視点や内容は何かということも含めて、次回検討していただくこととしたい。

(5) 事務局より以下のとおり事務連絡が行われた。

- 次回の検討会は12月19日16時この場所を考えている。本日頂いた意見を整理したものを用意したいと思うが、その間にも本日配布した資料の中で、特にマーシーに期待する点については、先生方で意見があれば、逐次メール等をもられれば、その点も含めて反映させたい。